



大  
畿  
省

各邦歲入出理財管釐法

普魯士國之部

2367



414  
A 4495

普魯士國



理財期限ノ事  
立憲院議定ノ國上ニ於テ非サレハ徵收スル  
限テハ各邦執行スバ各異ナルアリ憲法ハ一リ或ハ執行ノ期  
限ハ六年ニ依テ豫算決定スル事(即チ理財法)  
渾テ六年之依テ豫算執行スルモノ事(即チ理財法)

各官廳ノ豫算表ハ皇帝ノ名ヲ記載シ但シ制可ヲ云又各  
卿共ニ大蔵卿ノ名ヲ記ス其所管各部局ノ豫算表ハ該長  
官共ニ大蔵卿ノ名ヲ記ス而シテ之ヲ下院へ出シ下院ヨ  
リ上院へ回致ス上院ニ於テハ此豫算ノ總高ヲ取捨スル  
ノ權アリト雖モ其科目ヲ可否スルノ權ナカルヘシ頃者  
政府ト議院ノ間ニ紛議ヲ起セリ此ノ原因ハ政府ヨリ豫  
算表ヲ下院へ下議シタルキ下院其異見ヲ陳述シテ之ヲ  
上院へ出セシニ上院ニ於テ此異見ヲ用ヒス政府曩ニ下

大蔵省

天正十一年四月  
萬年曆  
贈

院へ下議セシ豫算ノ高ヲ以テ之ヲ批可スルニ依リテナ  
リ故ニ政府ト議院トノ間終ニ協和スルヲナキニ至レリ  
出納年度共會計年度ノ事

出納ノ年度ハ一月一日ニ起リ十二月三十一日ニ終ルヲ  
法トス出納ノ年度ハ會計ノ年度ト對照スルモノニシテ  
即チ會計年度ノ決算ヲ以テ出納年度中ニ收入支出シタ  
ル金高ヲ結果スルモノナリ金庫ノ取扱ハ前ト異リ該計  
算ハ終年ニ至ルニ雖モ之ヲ結果セスシテ別ニ其期限ヲ  
定ムルヲアリ小金庫ハ次年一月三十一日ニ於テ中  
庫ハ同二月十日ニ於テ大金庫總金庫ハ同三月十五日  
ニ於テス但シ之ヲ定ムル所以ハモノハ終年ニ至リ出納  
年度ノ收入支出若シ滯滞スルヲアルト雖モ此ノ期限中  
ニハ必ス完結スヘキ旨ヲ以テ金庫計算報告ノ片ニ至リ

帳簿上ニ於テ成ルベク滯滞未決ノモノナキヲ要スル為  
メナリ

歳入歳出豫算表編製ノ事

歳入歳出豫算ノ表式ハ「ガルト」ト經費ノ差引ヲセ「ガルト」  
ノ餘ハ「澳國ガルト」トノ部ニ詳ナリノ方法ナリ千八百二  
十四年十二月十八日上等會計管理院ハ命令書ノ内政府  
ノ收入ハ渾テ全高ヲ以テ之ヲ帳記スヘキ旨ヲ親裁シア  
リ故ニ收入ノ内ヨリ經費ヲ差引計算セス其惣額ヲ掲ケ  
而シテ需要ノ經費高ハ別ニ支出ノ部ニ組入ルモノトス此  
ノ法往時ハ専ラニ行ハレスト雖モ軌近ニ至リ嚴ニ之ヲ  
執行スヘキモノトナルヨリ各定額或ハ歳入歳出ノ表ニ  
於テモ必ス此ノ「ガルト」トノ方法ヲ以テセリ臨時ノ收入  
仮令ハ政府ノ所有品或ハ廢棄物沽却ノ金ハ必ス該部局

歳  
省

ヨリ總金庫へ臨時ノ收入金トシテ之ヲ納ムヘシ此金高  
ハ決テ其部局ノ經費ニ宛ヘカラス但シ家屋等ヲ破毀シ  
之ヲ沽却セシ金高尚同所ニ於テ再築スルキハ此ノ金高  
ヲ以テ其需要金ノ一部分ヲ補フハ妨ナシトス此方法  
ハ渾テ政府ノ各省局ニ於テ豫算外經費濫用ノ弊ヲ防禦  
セシメシ為ノ大旨ヨリ出ルモノナリ而シテ小金庫並ニ  
中金庫ノ余贏金ヲ著明ニスル為メ子ツト「經費ノ差引ヲ  
ナセルモノ余ハ澳國ノ部ニ詳ナリ」ノ表式ヲ用ヒスト雖  
モ歲入歲出表ヲ編製スルキニ於テ收入金徵集方並其監  
督ニ就タル經費ヲ詳明ニスルアルヲ以テ自ラ子ツトノ  
余金ヲ知得ス歲入歲出表中小金庫出納ノ科目ハ之ニ登  
記セスト雖モ此小金庫ニ関スル部局ニ於テ自己ノ資金  
ヲ以テ其經費ヲ出納スル金額ハ之ヲ記載ス尤余贏ノ分

中金庫へ之ヲ納ムル例規アレハ小金庫ノ出納該縣該局  
ノ區分ニ隨テ之ヲ詳明ニシ以テ歲入歲出表ノ副表トス  
政府ノ金庫ヲ四ニ分ツ

第一 小金庫之ハ「スペースヤールカッセ」ト云

第二 中金庫〔縣庫ノ〕之ハ「グロビンチヤールカッセ」ト云

此中金庫ヲ二ニ分ツ

イ 一二件ノ收入ヲ掌ル

ロ 渾テノ收入支出ヲ掌ル〔但シ左ノ金庫ニ入ラサル分ナリ〕

第三 大金庫之ハ「ゼラールカッセ」ト云即チ中央ノ  
金庫ニテ幾件ノ收入支出ヲ掌ル

第四 總金庫之ハ政府ノ收入支出ヲ總管ス

小金庫〔スペースヤールカッセ〕ハ人民ヨリ直ニ歲入ヲ徵收スル下等ノ局ヲ云之  
ハ政府徵收スル處ノ歲入其種類多數ナルニヨリテ此ノ

大 歳 省

金庫ノ種類ニ亦之ニ準シテ設立スルモノトス即チ左ノ如シ

イ 大藏省管轄ノ分ハ官有地ノ金庫（即チ代官金庫ヲ云フ）

山林ノ金庫直税ノ金庫間税并ニ運上金徴收ノ金庫道路税徴收ノ金庫等

ロ 通商省并ニ工部省管轄ノ分ハ鑛山製鉄并ニ製塩所益金徴收ノ金庫郵便局益金徴收ノ金庫等

支出スル所ノ小金庫其種類モ亦前ニ同シ之ハ總金庫或ハ中金庫ニ從屬シテ其回致スル処ノ金ヲ領收シテ之ヲ支出スルモノナリ此金庫ハ即チ各地鎮臺ノ金庫及ヒ海陸軍所管部局ノ金庫輜重局ノ金庫築碯局ノ金庫海陸軍病院ノ金庫又ハ牢屋懲役所ノ金庫工學校ノ金庫其外學

術ノ為設立スル各所ノ金庫即チ大學校師範學校中學校裁判所飼馬所ノ金庫等ヲ云フ右ノ金庫ニ於テハ官金并他ノ資金ヲ出納スルニ於テ該金庫ノ收入ヲ以テ該所ノ經費ヲ支出スルモノトス但シ此經費ノ内政府ヨリ幾分カ又ハ其金額ヲ供給スルモノアリ

### 政府會計ノ事

千八百二十八年三月十七日ノ規則ヲ以テ渾テ金庫八月末ニ至リ諸口共一同ニ決算ス何ントナレバ官吏常式ノ監督ヲ要スルニ依リテナリ此際一月中ノ經費差引餘贏ノ金高ヲ掲記セル處ノ証書ヲ作り而シテ每一月ノ総撒ヲ以テ三ヶ月目ニ至リテ明細表ヲ作ル其表ヲ製スルニハ豫算表ニ隨テ方ニ支出收入スヘキモノ及ヒ既ニ支出收入セシモノ并ニ豫算高ノ節目ニ基キテ定額有餘ノ景

況ヲ著シ以テ之ヲ四季ニ分リ二季ノ表ヲ作ルニハ一季  
分ヲ加ヘ三季ノ表ヲ作ルニハ一二季ヲ加ヘ四季ニ至リ  
テハ前三季ヲ加ヘテ全一ケ年ノ景況ヲ著シ以テ該局決  
算ノ基本ニ供ス故ニ該表ト決算表ト毫モ相違ナキヲ要  
ス若シ四季總撤ノ後帳簿中ニ誤謬ヲ發見スルハ次季  
ノ計算中ニ挿入シテ不足ハ之ヲ徴收シ過剩ハ之ヲ返付  
ス而シテ此ノ決算表ハ左ノ行ニ頒ツテ之ヲ編製スルモ  
ノナリ

- 第一 豫算ニ基キテ徴收或ハ支出スベキモノ
- 第二 豫算ノ金額ヨリ超過セシモノ
- 第三 豫算ノ金額ヨリ減省セシモノ
- 第四 計算上ニ於テ徴收或ハ支出スベキモノ
- 第五 實際上ニ於テ徴收或ハ支出セシモノ

第六 實地上ニ於テ徴收或ハ支出セシモノヲ計算上  
ニ於テ差引タル殘額但シ會計年度中ニ於テ徴  
收スル能ワザルモノ或ハ既ニ支出スベシト決  
セシモノヲ支出セシテ止ムモノハ第三項ノ  
中ニ組入ルモノトス

第六項ニ掲記スルモノハ次年ノ決算表中ニ於テ前年ノ  
殘高トシテ別行ニ書ス  
四季ノ計表ハ終年ニ至リ該縣ヨリ其主管ノ省若クハ廳  
ハ出シ且ツ大藏卿ヘモ出スヘキモノトス週年ノ決算表  
ハ上等會計管理院ヘ出スモノナリ各省ニ於テハ議院ヘ  
回致スル為メ四季ノ計表ニ據リテ決算表ヲ作り其節目  
ヲ區分シ又豫算表ニ比較シテ之レニ登記ス而シテ上等  
會計管理院ヘ送致ス上等會計管理院ニ於テハ既ニ検査

大藏省

セシ週年ノ決算表ニ照査シ誤謬ナキハ之ヲ力保証ヲナ  
ス此手續ヲ終テ各省ノ計表ヲ促セテ大蔵省ニ送遞ス大  
蔵省ニ於テハ該省ノ決算上等會計管理院ノ検査ヲ經テ  
各省ノ決算ト併セテ其年ノ惣決算表ヲ作ル此惣決算ハ  
皇帝陛下ノ制可ヲ得テ議院ヘ出ス之ヲ何年ノ會計決算  
表ト云普魯士國ニ於テ此ノ決算表千八百五十八年ノ分  
ヲ千八百六十年ヨリ六十一年間ニ出セシヲ以テ終リト  
ナスモノナリ

會計管理行政管理局ニ上等會計管理院ノ事

普魯士國ニ於テ千八百二十六年迄ハ理財ノ管理官アリ  
該官ハ簿記簿記法ハ勘定ヲ附込ム法ニシテ其法二類アリ  
一ヲ單記ト云ヒ一ヲ復記ト云單記ハ收入支出或ハ需  
要供給ノ金高ヲ二桁二重ニ附込ム一ナキモノヲ云ナリ

復記トハ之ヲ兩桁ニ對記スルヲ云ナリノ精法ヲ管理ス  
ルノミニ非ス或ハ各廳定額ノ事由ヲ稽查シ或ハ行政官  
出納ノ事務ヲ協カスルモノナリ然ルニ此管理官ニ於テ  
行政上ノ職掌ヲ妨碍セシ事アルニ因リ大蔵卿ヲシテ  
之ノ建白ニ隨テ之ヲ廢シタリ此後ニ政府ノ簿記官ヲ設  
置シ獨立ノ官トナセシ是終ニ又廢止ス其後簿記ノ精法  
大蔵省ノ主務トナリシヨリ大蔵省ニ於テハ簿記ノ官ヲ  
設ケ毎月末ニ大中小ノ金庫ヨリ其出納ノ月計表ヲ出サ  
シム此月計表ニ記載スル事左ノ如シ

- 第一 豫美高ノ内其月ニ計表ヲ出ノ月ヲ云フ當ル定額ノ金高
- 第二 定額ニ基キ實際支出ノ金高
- 第三 實際存在セル金貨并ニ証券ノ高

大蔵省

各廳ニ於テハ簿記官ヲ設置セズ其金額ノ出納ハ該廳該  
金庫ノ議官計筭吏ヲ從屬シテ之ヲ管理スルモノナリ  
上等會計管理院ニ於テハ計筭ノ當否簿記ノ体裁ヲ是非  
スルノミニアラス理財ノ法律並ニ出納ノ規則ニ抵触セ  
サルヤ否ヤヲ稽查シ或ハ經費ノ定額或ハ給与規則金額  
ニ照合スルヤ否ヤ又ハ其支用ノ濫出及ヒ節儉ナルカヲ  
筭定スルモノナリ

上等會計管理院ノ督責ハ之ヲ二類ニ分ツテ帳記ス一ハ  
會計官違筭ノ事件ヲ云ヒ一ハ行政官會計上ニ於テ失錯  
ノ事件ヲ云ナリ而メ若シ該卿ノ命令ニ隨ヒ或ハ該卿ノ  
免許ヲ受ケテ之ヲ執行セシ事件ナルニ於テ是ハ計筭帳  
ニ附屬スル譯書ヲ以テ詳知ス管理院ヨリ不同意ノ件ハ  
該卿ニ照管シテ之ヲ討論シ其論決定セサルハ管理院

ヨリ年報ヲ皇帝陛下ニ上奏スル時ニ於テ此討論ノ顛末  
ヲ陳述シテ其親裁ヲ仰キ以テ管理院ノ職掌終ルモノト  
ス而シテ右督責ノ事件各省各縣ニ關涉スレハ其該廳ニ  
照管シ又各部局ニ關シタルモノ其主管ノ廳ヲ經テ出ス  
モノナラハ其順序ヲ以テ之ヲ質問スルナリ  
各金庫勘定帳進達ノ期限ハ上等會計管理院ニ於テ之ヲ  
確定セシモノナリ小金庫ハ次年會計年度ノ六月三十日  
迄ニ出シ中金庫ハ同ク十月一日迄ニ出スヲ則トス大金  
庫ハ兼テ各省ニ照管ノ上右ノ期限ヨリ延期シテ程限ヲ  
定ムルモノナリ上等會計管理院事務執行ノ期限ハ四月  
一日ニ起リ次年三月三十一日ニ終ルモノトス何ントナ  
レハ各省ヨリ回致スル處ノ會計帳早クシテ三月ニ至ラ  
ザレバ之ヲ管理院へ出スヲ能ワサルニ依リテナリ然ル



二千八百二十四年十二月十八日布告書ノ内第四十八條ノ規則ハ千八百三十六年ノ親命ヲ以テ之ヲ改正シ管理院ニ於テスル會計決算ノ期限ハ必ス二年ノ内ニ整頓スヘキ事ヲ定ム〔即チ三年目ノ三月中ニ出スヲ云〕譬ハ千八百六十二年ノ會計帳ハ同六十三年三月中ニ出スヲ以テ千八百六十五年三月中ニ於テ整頓スヘキモノトナリシヨリ以來此法ニ基キテ執行シ未曾テ容易ニ此期限ヲ遷延スルヲナシト雖モ會計主務ノ官吏失錯ニ依リテ僅々一二件ノ決算稍遅延セシアル而已仮令這回ノ如キ政府議院ト紛議ヲ生スルト雖モ〔第二項ニ記スル如ク政府ヨリ豫算表ヲ下院ハ下議セシキ同院ノ異見上院之ヲ用ヒサルヨリ紛議ヲ生セシヲ云〕管理院ニ於テハ毫モ平常ニ異ナルナシ之レハ豫メ皇帝制可ノ豫算高ヲ踐履スル

ヲ以テ決算帳進達ノ有無ニ拘ラス之ヲ完結スルニ依リテナリ而シテ管理院ノ職掌ハ必ス毎年々年ノ決算ヲ稽查締結シテ之ヲ保證スルヲ則トス即チ千八百六十四年ヨリ六十五年ノ間ニ千八百六十三年ノ決算ヲ稽查完結スルヲ示ナリ

前項ノ規則ハ二十年以來管理院ニ於テ嚴ニ之ヲ遵守スト雖モ以前ノ事ハ其充分ナルヤ否ヤヲ保シカタシ各省經費ノ定額ヲ定ムルノ際ハ管理院ニ於テ其當否ヲ取捨スルニ関スルヲ得スト雖モ各省ヨリ出ス所ノ會計帳ヲ稽查スルニ至テハ必ス其豫算ノ定額ト比較シテ其當否ヲ鑑別ス而シテ其會計中新規ノ事件アレバ其制可ノ有無ヲ推究シ又ハ豫算高ニ前年ノ決算高ヲ以テ之ヲ積ルモノナリ〔於テ收入支出ノ概算ト實際出納ノ會計

ト符合スルヤ否ヤヲ監視スルモノトス  
各廳ニ於テハ豫算制可ノ定額ヲ以テ一切ノ經費ヲ供給  
スルモノトス故ニ定額中彼我融流スヘカラス譬ハ此章  
省中經費ノ科目ヲ云フノ高ヲ超過シ彼ノ章ノ高ニ於テ  
殘贏ヲ生スルト雖モ其殘贏ノ金額ヲ以テ其不足ノ金高  
ヲ充足スルヲハ皇帝制可ノ後ニ非サレバ必ス之ヲ流用  
スルヲ得ズ尤モ收入ノ高豫算ノ高ヨリ若シ超過シタル  
ハ其超當ノ高ヲ以テ不足ヲ補フトモ妨ナシトス此外  
渾テ臨時ノ為メニ需要スル處ノ金高他ニ節減ノ餘金ナ  
キハ必ス大藏卿ノ承認ヲ經ルモノトス  
右定額超過ノ際彼我ノ章ニ於テ流用專行スヘカラサル  
ト既ニ禁遏スト雖モ章中ノ科目ニ於テ互ニ流用スルノ  
可否ハ未ダ曾テ論定セス

普魯士國ノ憲法一千八百五十年一月一日制定ヲ定ムル時  
上等會計管理院ノ規則ハ追テ之ヲ創設スベキトノ約條  
アリ然リ而シテ未ダ其規則ヲ制定セサルヲ以テ現今尚  
千八百二十四年十二月十八日ノ命令ヲ遵奉シテ之ヲ履  
行セリ而シテ管理院ハ皇帝ノ直管ニシテ政府ノ附屬ニア  
ラス即チ行政官ト單行シテ國家ノ總會計ヲ稽查管理ス  
ルモノナリ故ニ其事務ヲ執行スル時ハ院ノ官負會議ノ  
法ヲ以テ之ヲ評議スト雖モ議定ノ權ハ該院長官ノ權限  
ニアリ此法各省ノ議會法ト同シ然ルト雖モ若シ金庫中  
金負不足スル等ノ事僅々一二件ニ於テ評議ヲ要スルハ  
ハ必ス之ヲ衆議ニ決スルモノトス而シテ評決ノ後院長若  
シ此議ニ同意セサル時ハ實地ノ執行ヲ止メ其意見ヲ皇  
帝ニ上奏シ以テ親裁ヲ仰ク此外同院ノ議事ニ関スルモ

大藏省

ノハ渾テ院長ヨリ具状スルヲ則トスルモノナリ管理院ノ職負左ノ如シ

長官 一人

頭取 二人

議官 十人

長官詰所ノ書記官 一人

計美官 五十二人

記録官但簿記官共 七人

筆生 七人

會計稽查局ヲ左ノ十一ニ分ツ

第一 總金庫惣決美並ニ小計美ヲ云國債償還

金并ニ養老金諸官負免職後賜ル所ノ隱

居料ヲ云非役給并ニ身元金金庫ノ職

ヲ奉スル片出ス所ノ証據金ヲ云フ及ヒ貨幣鑄造ノ事

第二 宗教文教并ニ醫學ノ事

第三 鑛山并ニ製鍊製塩及ヒ塩專賣ノ事

第四 司法并ニ裁判所ノ事

第五 海陸軍ノ事

第六 租稅ノ事

第七 官有地ノ事

第八 官山林ノ事

第九 郵便ノ事

第十 商工業并ニ土木建築道路橋梁或ハ鐵道

ノ事

第十一 内務并ニ選卒及ヒ勸業ノ事

右一局ノ長ニ議官一人ツ、ヲ置キ以テ其事務ヲ管理セシメ又之ニ相當ノ計筭吏ヲ後屬セシム（海外通商）政府ヨリ設クルモノヲ云ナリ（伯靈）府銀行ノ會計表ハ管理院ニ進達セサルヲ以テ同院ノ官吏一員平常該處ニ在留シテ會計ノ事務ヲ監督シ又議官一員臨時ニ派出シテ之ヲ検査スルヲ則トス

政府各廳（渾）テノ經費金出納會計ノ事ハ一切同院ニ於テ稽查スルモノト雖モ該院委任狀第二ヶ条ニ基キ瑣少ノ會計ニ於テハ行政官ニ委シテ之ヲ稽查保證セシハル（妨）ケナシトス（即）チ宗教文教所等ノ小買モノ或ハ海陸軍費ノ内譬ハ合聯隊ノ學校及ヒ中隊小買物ノ如キヲ云フ又各廳常用諸品ノ目錄ハ之ヲ稽查スルヲ要セス何ントナレハ行政官ニ於テ其諸品兼テ定規アルニ依リ毀損或

ハ紛失等ヲ詳細帳記シ終年ニ至リ回遞スルヲ以テナリ此外又同院ノ稽查ヲ經サルモノアリ譬ハ裁判入費ノ如キモノハ上等裁判所ノ金庫ニ於テシ郵便端書稅ノ如キハ郵便總局ニ於テシ直稅間稅先ニ諸連上目錄ノ如キハ縣廳租稅課ニ於テ詳細之ヲ稽查スルニ依リテナリ然ルト雖モ同院ニ於テハ臨時ニ其帳簿ヲ出サシメテ之ヲ稽查スルヲ則トス

ベルリン府銀行ノ會計ハ管理院ノ出張官ニ於テ稽查スヘキニ因リ若シ帳簿上不審ノ條件アルハ之ヲ討訊スルヲ得ルト雖モ其是非ヲ判決シ或ハ之ヲ保證スルハ銀行ノ衆議ニ長官五人ニテ評決スルモノナリ（ア）リテ管理院ノ權限ニアラス

政府ヲ管理スル

惣決算表皇帝批可ノ後議院ニ下議シテ之カ保証ヲ為サシ  
此ノ時兩議院ニ於テ其當否ヲ議定シ之レニ其議定書  
ヲ添付シテ兩院ノ長官ヨリ大藏卿へ回遞ス大藏卿若シ  
其決議ニ異見アルハ兩院ニ對シ之ヲ討論スルノ權アリ  
トス然レモ此規則ヲ從來布告セサリシヨリ終ニ政府  
ト議院ノ間ニ紛議ヲ生シ現今未夕決定セサルニ依リ實  
際ニ於テ之ヲ執行セス此紛議ヲ生スル所以ノモノハ議  
院ニ於テ政府ヲ管理スルノ方法ヨリ起ル而メ各省豫算  
ノ定額超過セシキハ皇帝之ヲ特許ス故ニ管理院ニ於テ  
モ既ニ批可ヲ經ルニ依リテ該院ノ意見ヲ陳述スルヲ得  
ス或ハ管理院ニ於テ執行スル處ノ會計稽查ノ景況及ヒ  
同院ヨリ皇帝へ上奏シタル各廳定額支用遣出不條理ノ  
條件ヲ檢査セシテ議院ヨリ之ヲ申請スルト雖モ政府亦

之ヲ許サス議院ニ於テモ曩ニ但シ千八百六十二年一月  
廿一日ノ親命ヲ以テ下議セシモノヲ云政府ヨリ下議セ  
シ管理院ノ規則共ニ職制ノ法案今ニ至ル迄承諾セサル  
ハ蓋シ右ノ因故ニ基ツクモノナリ依テ其詳細ヲ記載ス  
ルト左ノ如シ

普魯士國政府會計管理副章ノ事

議院ニ於テ政府ノ總決算ヲ保証セシトハ千八百五十八  
年ヲ以テ限リトシ其後ハ議院ニ下議スルアルナシ國  
憲第百四ヶ條ニ惣決算表ハ上等會計管理院ノ意見ヲ付  
シテ政府ヨリ議院ニ下議スルノ規則アリト雖モ之ヲ履  
行セサルガ為ナリ故ニ議院ニ於テモ其決算ヲ稽查スル  
ヲ得ス只豫算ノ定額超過スル片之ヲ保証スル而已ノ權  
限トナレリ然ルニ現今ニ至リテハ政府ヨリ決算表へ管

理院ノ意見ヲ付シテ議院ニ下議セシムト雖モ定額超過ノ事ニ就テハ皇帝之ヲ保証スルニ依リ管理院其意見ヲ具陳スル能ワサルヲ以テ議院ニ於テ之ヲ不満足トセリ  
議院ニ於テ之カ為メ數年前ヨリ管理院ノ規則是ニ職制ノ方案ヲ下議セラレシヲ政府ニ建白スト雖モ此指令遷延シ千八百六十二年一月二十一日ノ親命ヲ以テ其方案ヲ議院ニ下議セリ

此方案ノ大意千八百二十四年十二月十八日ノ親命ニ稍類似スト雖モ其異ナルアルモノハ管理院ニ於テ衆議ノ權幾分カ前規ヨリ増加セシモノアリ即チ豫算ノ定額超過セシキ其意見ヲ陳述スル事是ニ管理院ノ上奏ヲ抑壓スル能ハカル事而シテ此ニ件ニ於テハ亦兩院ノ承認ヲ經ルニ非サレハ親裁スルヲ得サルモノト定ム此外國憲

第百四ヶ條ノ通り必ス惣決算表ハ管理院ノ意見ヲ添付シテ政府ヨリ議院ニ下奏スルモノトシ且シ此決算稽查ノ際ニ於テハ最モ左ノ事件ヲ詳明ニスルヲ要スルモノナリ

第一 惣決算表ニ記載セシ出納ノ高ト各金庫ノ會計決算帳ニ符合スルカ否ヲ管理院ニ於テ之ヲ保証スル事

第二 豫算ノ定額ヲ超過スルヤ否ノ事  
管理院上奏ノ内議院へ下議スヘキモノ

第三 事即チ管理院不同意ノ事件各省へ照管シテ其論決定セサルハ之ヲ皇帝ニ上奏スルモノトス而シテ皇帝ト雖モ各省豫算ノ定額ヲ超過セシ事ニ至リテハ議院ノ承諾

大 歳 省

ヲ經ルニ非サレハ必ス許可スルヲ得サルノ如キヲ云

此議院ニ於テハ此方案ヲ不充分トシテ承諾セズ議院ノ委員ヨリ之ヲ改正シ政府ヲシテ議院ノ意見ニ從ハシムルノ大目的ヲ以テ之レカ方法ヲ立テ爾後會計ノ事ニ於テハ皇帝之ヲ專制スルヲ廢止シ共ニ管理院直ニ議院及ヒ其委員ト交際ヲ為スヲ許ス依テ方案中左ノケ條ヲ改正増加セリ

第一 管理院ノ官員ヲ他廳ニ登庸スルハ必ス

前官ノ等級ヲ以テ採用スヘキモノトス

第二 同院官員ハ内ニ親戚ノモノヲ登庸スルヲ

禁ス

第三 同院官員ニ於テハ他官ヲ兼任シ及ヒ臨時

他ノ事務ヲ命シテ別ニ俸給ヲ与フルヲ禁

第四 同院ヨリ議院ノ意見ヲ申述スルヲアルハ

該院ニ於テ衆議ノ上之ヲ決定ス但シ此

外タリハ該院官吏ノ内一名ニテモ議事ヲ

要スルモノアレハ衆議ヲ經ルモノトス

第五 陸軍ノ惣定額ト雖モ管理院ノ衆議ヲ經ル

モノトス但シ陸軍ノ定額從來関セサルニ

依リテナリ

第六 定額ノ超過ハ豫算高ノ内章條科目ノ此譯

前ニ詳ナリ定額超過セシ而已ナラス條中

ノ細目及ヒ部局ノ定額ニ至ル迄曩ニ豫算

ノ議院ニ於テ稽查セシモノハ渾テ之ヲ

稽查スルモノトス

第七

會計ニ屬スル所ノ証書各部局ハ勿論從來  
出サ、ル各省ト雖モ渾テ同院ヘ送遞スヘ  
キモノトス

第八

同院ニ於テ會計稽查ノキ若シ不條理ノ事  
見認ニ於テハ金額ノ多少ヲ問ハス各部局  
ニ至ル迄議院ニ於テ曩ニ豫算ノキ稽查セ  
シモノハ渾テ之ヲ稽查スルモノトス

第九

定規アル收入皇帝ノ權利ヲ以テ赦免スル  
一或ハ締結セシ条約ヲ解消スル一或ハ金  
庫出納ノ不足ヲ特許スル等ノ一ハ以來法  
律上ニ於テ之ヲ禁止ス

第十

千八百二十一年十二月十八日ノ親命ヲ廢  
ス

第十一

政府ヨリ議院ヘ下議セシ惣決算表共ニ管  
理院上奏ノ一々稽查調理ノ為メ議員ノ内  
委任員ヲ以テ其事務ヲ擔任シ之レニ管理  
院ノ官員一名ヲ從屬セシム而シテ委員ヨ  
リ管理院ニ諮問ノ事ハ同院ニ於テ必ス詳  
明答辨シ其他渾テ會計上ノ事共ニ証據ノ  
書類等委員ニ於テ見閲ヲ要スルキハ毫モ  
之ヲ秘スル一ナシトス

第十二

議院關係ノ事件ニ就テハ渾テ兩院ヨリ各  
卿ノ手ヲ經ス直ニ管理院ヘ照管スルモノ  
トス(但シ書翰ノ往復モ右ニ準ス)

此事件ハ現今ニ至ル迄未夕決定セス(此原本千八百六十  
六年ニ刊行セシモノナレハ現今ニ至リテハ右條件ノ内

大 歳 省



既ニ議定セシモノ之レアラシク

六  
病  
ノ

